

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

水子貝塚資料館市民学芸員 をガイド！

6月24日(日)勝坂遺跡公園と田名向原遺跡公園では、遠来の訪問者を迎えました。来訪団体は、埼玉県富士見市の水子貝塚資料館で活動されている、市民学芸員さん20人の一行です。

研修目的として、遺跡の現地見聞とボランティアガイドとの交流を期待しているということで、当方のボランティアでは、それなりに準備をし、勝坂遺跡活用実行委員会（勝坂ボランティアガイド）のほぼフルメンバーで迎えました。

勝坂遺跡の概要とボランティアガイドの実際や組織構成などについてガイダンスし、園内をポイントごとに分担し案内しました。

見学者は経験豊かな方々が多く、ハイレベルな質問も出て対応に窮するところもありました。

敷石住居址では、敷いてある石の大きさが話題になり、同行されて来ていた専門学芸員さんが解説を買って出てくれる場面もあり勉強になりました。（敷石の大きさにも地域的な特徴があるのだということを知りました）

1時間の予定を少しオーバーして案内を終え、田名向原へ移動してもらいました。



勝坂遺跡公園

目次

- ①水子貝塚資料館市民学芸員をガイド！
- ②・甲州街道を歩く（布田五宿）
・立川の遺跡を歩く
- ③・旧淵野辺村の領主・岡野家と勝小吉
・コラム のこぎり演奏とミニ盆栽体験
- ④・文化財マップ紹介—北部班
～境川流域旧小山村の散策②～
・文化財保護課からのお知らせ



田名向原遺跡公園

田名向原遺跡ボランティアガイドチームの方は、通常のガイド体制6人と旧石器ハテナ館の学習指導員で対応しました。

館内と公園内3遺構をそれぞれ分担で案内するいつも通りのやり方で案内しました。

史跡水子貝塚は主に縄文時代遺跡なので、田名向原遺跡が、旧石器時代を中心としていることを意識してあたりました。

見学後の歓談の中に「旧石器時代の遺跡は珍しいので、その文化的価値をもっともっとアピールしてほしい」との声を聞くことができ、意図が通じたようでした。

皆さん満足された様子で帰路につかれましたので、ガイドの役目を果たせたと安堵しました。

（ボランティアガイド 畠山）

北部班活動報告：イベント「甲州街道を歩く（^{ふだ}布田五宿）」

4月15日（日）北部班100回目の定例会の後、橋本駅12時35分発の京王線で調布駅に集まり、甲州街道の布田五宿を訪ねました。

①甲州古道の歴史

東京日本橋から長野県下諏訪町に至る「甲州街道」は、古くは「甲州海道」あるいは「甲州道中」とも呼ばれ、甲州街道の昔の道を「甲州古道」と呼んでいます。甲州古道は、縄文・弥生時代に原点を発するという説もあり、江戸時代以前から地域の人々の生活や交流の場として使用されていました。

江戸時代に幕府が甲州古道を五街道の一つとして整備した後は、金を産出していた甲州に向かう「金の道」として発達し、また、西国の反乱から江戸を守る軍道としての役割も果たしてきました。

②布田五宿

江戸時代、甲州街道の調布市域には、国領・下布田・上布田・下石原・上石原に宿があり、「布田五宿」として宿場のつとめを交替で果していました。「布田五宿」には9軒の宿泊施設があり、両隣の高井戸宿や府中宿へ宿継ぎを行なっていました。



常性寺の馬頭観音塔

③印象に残った処

「布田五宿のお不動さん」として知られている常性寺の「馬頭観音塔 文政七年（1824）」は調布市指定の民俗文化財で相模原市ではあまり見られない珍しい石仏でした。

昭和39年（1964）10月、甲州街道はオリンピックのマラソンコースとして使われ、折返し地点（飛田給）に記念碑が建っていて「はだしの英雄」アベベを思い出しました。

④北部班第1回の定例会は さねさし創刊号で紹介されています。日時は平成16年4月10日で議題は「年間活動計画の策定」と「小班の設定」となっています。今年はまだ9年目に入っています。（北部班 光廣）

考古班「立川の遺跡を歩く」見学会（5月17日）



普濟寺参道入口にて全員集合

青柳段丘上の「市指定史跡大和田遺跡」は、段丘下の湧き水が豊富で、縄文時代早期から平安時代に至る竪穴住居跡や土器が出土しています。

直線道路がつきた辺りに、臨濟宗建長寺派の「玄武山普濟寺」があります。中世に活躍した武蔵七党、西党日奉氏の支族立川氏が

文和二年（1353）に菩提寺として建立したと伝えられます。（創建時は多摩川沖積地にあった説もある）室町時代には文化の中心となり普濟寺版と呼ばれる仏教経典を刊行し、江戸時代には名所でした。

次に、「立川氏館跡」です。立川氏は天正年間（1573～1592）に滅亡していますが、居館をかまえたのが普濟寺辺りと云われます。館跡には土塁の跡が残り、また、滅亡時に首級を埋めたとも云われる首塚がありました。

後半、「立川市歴史民俗資料館」に寄りました。立川市の地形や昔の生業は、多摩川と河岸段丘があり養蚕が盛んであった等、相模原市とよく似ておりました。

（考古班 駿河）

旧淵野辺村の領主・岡野家と勝小吉

南区東淵野辺の龍像寺には、江戸時代に当地を知行した旗本・岡野家の墓所があり、市指定史跡になっています。今回は、岡野家と勝小吉のかかわりについてお話します。

勝小吉は、幕末に幕臣として活躍した勝海舟（麟太郎）の父です。小吉は、無頼の生活を送った自身の半生を子孫の戒めのためにと、『夢酔独言』という記録を残しました。その中で小吉は、岡野家の借家人になってから一時岡野家に入り、騒動が多かった当家のために、ひと肌ぬいだことを詳しく述べています。

岡野家の当主が放蕩三昧なので隠居させ、新しく当主を決めてやった話や、岡野家は江戸では評判が悪く嫁の来手がなかったのを、小吉が口を効いて縁談を成功させた話などが事細かに記述されています。また、今の兵庫県伊丹市にあった岡野家の知行地(当時御願塚村)へ、御用金を徴収に行った自慢話など多々つづられています。

相州の村人を岡野家の江戸の住まいの普請に呼び出したことも記されており、江戸まで淵野辺の村人が駆けつけたのでしょうか。



岡野家累代の墓地（龍像寺）

岡野家の墓所に立つ墓誌には、数代にわたって孫一郎の名が刻まれています。小吉が当家と関係が深かったのは、天保元年（1830）から同9年頃までなので、9代孫一郎の融政と、10代孫一郎融貞と関わりがあったことが、小吉の記録から読み取れます。

小吉の記録をもとに子母沢寛が書いたのが、時代小説『父子鷹』です。今、菩提を弔う岡野家の子孫の消息は不明ですが、岡野家の墓地は、龍像寺により、きれいに管理されています。（東部班 宮下）

コラム

文化財調査・普及員有志の実行委員会が支える 古民家園保存・普及事業

5月27日(日)古民家園に於いて、今年度第1回目の事業「のこぎり演奏（ミュージカル・ソウ）とミニ盆栽体験」を行いました。

参加者130人余が、10時から40分間、金森武幸氏による、「野ばら」「みかんの花咲く丘」など、なつかしのメロディー10曲の演奏に聞き入りました。

ミュージカル・ソウは、西洋のこぎりを弓に張った弦で擦って独特の音色を出す楽器演奏ですが、日本では認知度が低いため、楽器店や音大・芸大などでも楽器として扱われていないそうです。

また、ピアノやギターその他の楽器のように楽譜がないので、演奏には曲の音符を暗記する必要があるとのこと。ちなみに奏者の現レパートリーは60曲ほどだとか。

演奏終了後、「ミニ盆栽体験」では協力していただいた「季楽会」の会員により、あらかじめ準備された植物を手に、同会員の指導のもと、希望者60人ほどが、真剣ななかにも、楽しそうに植栽体験をしました。

盆栽の展示は25日(金)から3日間行われ、なかなかの盛況でした。

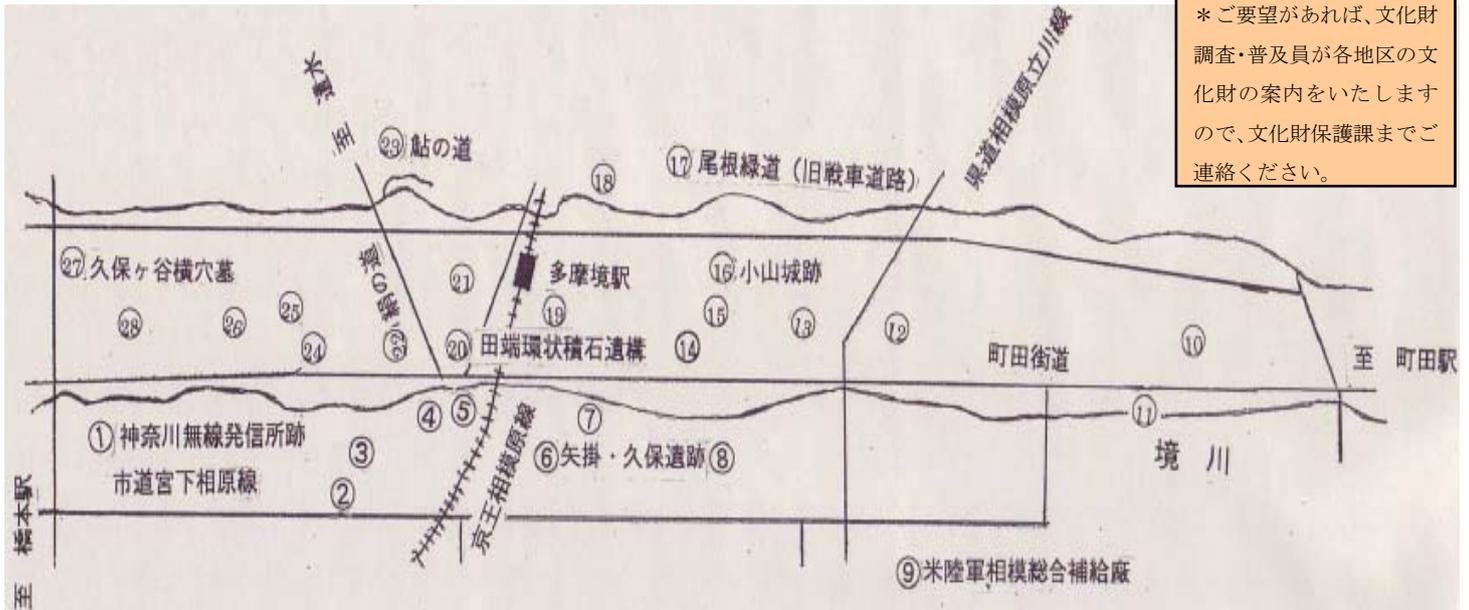
建物の内外を飾る、大小さまざまな盆栽の展示の中での演奏で、参加者からは「古民家園に盆栽・木々をかすかにゆらす、やわらかな音色に風情を感じる」との感想が聞かされました。

(古民家園事業実行委員会 西田)



← (左) ミニ盆栽体験の様子
(右) のこぎり演奏の様子

境川流域（旧小山村）の散策②



*ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

今回は前号の続き、境川流域(上流)旧小山村の日向小山(町田側)を紹介します。

日向小山(町田)

- ⑩中村不動尊→⑪中村地藏尊→⑫長泉寺→⑬御嶽神社→⑭福生寺→⑮片所谷戸→⑯小山城跡→⑰尾根緑道(旧戦車道路)→⑱小山内裏公園(瓦尾根瓦葺跡)→⑲札次神社→⑳田端環状積石遺構→㉑白山公園→㉒絹の道→㉓鮎の道→㉔堂の前地蔵尊→㉕天然理心流宗家三代目近藤(島崎)周平の生家→㉖宝泉寺→㉗久保ヶ谷横穴墓→㉘日枝神社

日向小山の多摩丘陵の尾根緑道(旧戦車道路)一帯は多摩ニュータウンの開発により発掘調査が行われ石器時代から近世までの多数の遺跡・遺構・土器・石器・道具他が発掘されました。今回の一番の見所は、多摩丘陵の尾根緑道から見る相模野台地です。相模野台地は丹沢連山、大山、富士山を背景にロマンに満ちたすばらしい所です。石器時代から近世までの人々も同じだったのでしょうか。前回の日陰小山と合わせて、今回の散策ルートに紹介した以外にも多くの見所があり、半日コースです。(北部班 宮崎)

文化財保護課からのお知らせ



・ナイトミュージアム in 田名向原 平成24年8月26日(日) 午後7時～

旧石器ハテナ館と史跡田名向原遺跡公園を夜間特別開放！毎年好評のナイトミュージアムを今年も開催します！クイズを解きながら真っ暗な展示室と公園を懐中電灯一つで回れば、肝試し気分を味わえます。

・小原宿本陣 発掘調査見学会 平成24年8月18日(土) 午前10時～

小原宿本陣の敷地内で行われる発掘調査の見学会を開催します。

調査成果の解説を11時と14時に行います。

・津久井広域道の発掘調査開始！

津久井城跡荒久地区で、津久井広域道路建設に伴う発掘調査がまもなく始まります。秋頃～冬には発掘調査見学会を開催予定です。



小原宿本陣

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371

*文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは相模原市のホームページからダウンロードできます。